

部活動の顧問

ゴールデンウィークも終わり、1年生も完全な部員として活動が始まっていることでしょう。

3学年がそろい、上級生は県大会予選にむけてがんばり、その中に初心者が希望を持って混ざり、活気がある時期です。しかし、先生方は年度当初の準備や会議等があり、部活動にすべてを傾けることは難しい時期でもあります。限られた環境で多くの生徒が活動し、怪我などの事故にも気をつけなくてはなりません。顧問の先生方には部活動の運営がたいへん難しい時期になります。

自分もこの時期、どのような部活動運営を行うか、毎年試行錯誤を行っていたことを思い出します。

以前、競技成績が良好な部活動の話聞いたことがあります。十分実力がある部員の集合体なので、一般の中学校の部活動には応用できないかもしれませんが、参考になることがあります。

その部活動は、4月5月は、新入部員の指導のための時期として考えます。早く、新入部員を部活動全体の練習になじませるために、部活動全体が、新入部員のために時間とエネルギーを注ぐそうです。

自分のキャリアを振り返ると、若い頃の4月5月は試合に出る選手優先でしたが、年齢経験が進むにつれて、その部活動のように、新入部員優先に傾いた印象があります。

現場で最後に持った部活動では、試合に出る3年生に、1週間に一度新入部員当番を決めました。決められた日は、自分の練習より、新入部員の指導を優先にしました。初めは、3年生から不満が出ないか心配しましたが無用でした。3年生にとって新入部員がたくさん入ること、指導できることはうれしいことのようなのでした。そして、教えることは自分ができないと行けないことなので、自分の技術も振り返り向上するきっかけになったようです。なんだか、学習の教え合いと似ています。

顧問は、新入部員と大会参加の部員両方にエネルギーと時間を注ぐことができました。このように、部員に任せる、信用することは部活動運営上大切で、有効にはたらくのではないのでしょうか。

新入部員は、先輩に教えてもらえる、単なるお客さん状態でなく、指導してもらっているという満足感があつたようです。

さて、視点を保護者に変えましょう。

特に、1番目の子供が中学生になり、部活動に入部したときは、毎日の子供活動に関心があります。特に、試合にでも出たものなら、うれしく思うものです。子供からのいろいろな話から、先輩や顧問の先生が十分に相手をしてくれている様子が伝われば、学校に対して先生に対して安心感と感謝の気持ちが出て来る可能性が高くなります。きっと学校の応援団になってくれることでしょう。決して大会の成績だけではないと実感しています。

最後になりますが、先輩教員に「どんなに忙しくても、できるだけ、部活動の初めと終わり、特に終わりには顔を出してあげなさい。」言われたことがあります。

お忙しい日々ですが、ぜひ部活動運営を研究して下さい。遠くから応援しております。